



東村さん



泉水さん夫妻



杉本さん



齊藤さん

人口減少が進む香取市ですが、一方で、やりたいことがあって市外からこの地に移住を決めた人たちがいます。今回は、そんな移住者の「本音」から、定住人口を増やす手掛かりを得ようと座談会を設けました。

### 農業ができる場所に飛び込んできた

—— たくさんの選択肢の中から、香取市を選んだ理由は？

杉本さん 農業をやろうと思った時に、畑作なら北総台地だと考えました。一枚の畑が大きくて使いやすいですね。その中から土地が広大にあった香取で、農作業場付の空き家が見つかったので…。

東村さん うちもハウスは居抜きです。洋蘭の栽培ができる施設を関東圏で探していたら、知り合いに今の場所を教えてくださいました。

齊藤さん 新しい土地で始めるには、頼れる人やツテがあるといいですね。私は移住前から香取市でサツマイモの仕入れをしていて、その関係者に「おいでよ」と呼ばれたのがきっかけだったんです。

泉水さん 私の場合、会社が牛を育てる場所を探した中で、今の牛舎付の空き家を住まいに選び、同じ牧場で働く夫と移住しました。



齊藤 公章さん(田部)

東京都出身の齊藤さんは、「浅草おいもやさん興伸」の名称でサツマイモ菓子専門店を営む。おいしいサツマイモを探し、何度も訪れた香取市に平成22年に移住。工場を移転し家族を呼び寄せた。

—— 移住にあたって、不安はなかった？

杉本さん こちらに来る前に（家を決めた段階で）近所にあいさつして、地元の人が良い人だというのは分かっていたので、対人関係は心配していませんでした。

齊藤さん やはり生活の基盤である仕事のことが第一に気になります。でも逆に仕事さえあれば非常に良いところで、住みやすいと思います。（一同うなづく）



泉水 薫さん(沢)

東京都出身の泉水さん夫妻。妻の薫さんが市内で子牛を育て、それを近隣の市に勤める夫の正久さんが休みの日に手伝う。平成26年に移住。

### 農業従事者たちが語る

# 移住者座談会

—— 移住し、やりたいことは実現できた？

泉水さん 私は、子牛を成育させるまでを担当し、大きくなったら北海道の牧場に送る仕事をしています。まだ数は少ないですけど、周囲に臭いが広がらないように特に配慮し、地域の人の理解を得ながら少しずつ増やしていけたらと思っています。

杉本さん 私たち夫婦はブルーベリーやハチミツのほか落花生を栽培から加工まで手広くやらせてもらっています。この夏は、うちの農園に体験学習の申し出がありました。農もたちを受け入れました。農繁期には近所の人にパートで手伝っていただいていますし、こうしたつながりは大事



杉本 弘道さん・慶子さん(九美)

愛知県出身の弘道さんと東京都出身の慶子さん夫妻は、2人で農業をやろうと、平成23年に移住。「佐原ベリーファーム」の名称で農園を設立し、ブルーベリーとハチミツを主に生産している。

にしたいですね。

東村さん 市場のほか近隣のマルシェに胡蝶蘭の切り花や多肉植物などを出品しています。育てるのは私ですが多肉植物の寄せ植えは妻が作成していて、お客さんに参加してもらええる教室は、女性にとっても人気があるんですよ。

齊藤さん 良いですね。うちもパートさんに来てもらっています。内容はサツマイモの皮むきなのですが、これがおいしいお菓子になるんです。最初は仕事が見つからなくても、話をするうち人柄が分かかって楽しいです。

—— 実際に暮らしてみても、このまちの印象は？

東村さん 正直、子育てする環境がないのと、私の時は「こども急病電話相談」が機能せず、

自分で病院を探すことになったのは困りました。あとは国道など、歩道がなく子どもを歩かせるのが怖いんです。これは地元の皆さんも感じていそうですけどね。

泉水さん 移住後に2人目を授けました。また、知り合いがいない土地で、夫が仕事へ行くときにも相談できないまま2人の子どもを抱え、転入時に紹介してもらった児童館にも気後れしていたんです。でも行ってみたらすごく良かったので、そうした人も前向きになれるよう、移住者間で情報交換が活発になるといいですね。

子育てで頼る人のいない核家族では、一見「なぜ出来ないの？」と思えることでも、行き届かないことが多々あります。知らぬ間に地元の決ま

市内に住む人、基幹産業である農業に従事しようとする人を応援しています。

## 住まい探しのお手伝い

企画政策課 ☎(50)1206

### ■空き家バンク

市内の空き家を有効活用し、移住や定住の促進による地域の活性化を図ることを目的に、香取市空き家バンク事業を実施しています。

「空き家を売りたい・貸したい」と考えている空き家所有者の皆さん、「香取市に住みたい」と考えている空き家利用希望者の皆さん、香取市空き家バンクに登録してみませんか。



## 農業をやりたい人を支える

農政課 ☎(50)1258

### ■農地利用集積円滑化事業で農地の貸し借りを支援

農地を貸したい所有者と借りたい農業経営者の間に立ち、市が農地の仲介や諸手続きを行い、経営規模の拡大・新規参入を進めます。

### ■青年就農給付金

原則45歳以下で新規就農する人に、農業を始めてから経営が安定するまで最長5年間、年間最大150万円を給付します。

### ■香取市農業後継者新規就農助成金

市内在住で千葉県香取農業事務所が開催する「農業経営体育成セミナー」を受講している35歳以下の人に、年間12万円を助成します。

### ■青年等就農資金

- 認定新規就農者が借りられる資金です。
- ◇貸付対象者 認定新規就農者（市から青年等就農計画の認定を受けた人）
- ◇貸付限度額 3,700万円 特認1億円
- ◇償還期限 12年
- ◇貸付金利 無利子
- ◇貸付主体 日本政策金融公庫

まちを生かすのは人です。人が住まいを移し、新しい場所で活動しようとする時には、大きなパワーがもたらされます。今回、登場した皆さんは、この地に生産拠点を置くことで元気を呼び込んでくれました。

まちを生かす人の、笑顔があふれる姿を誰もが望んでいます。座談会でも、「まち（人々）」はその期待にどのように応えていくか問われました。今、何ができるのか。より良い「まち」への扉を開くために――。



栗田元一さん (八日市場)

私が農業委員をしていた時、東京都出身だという青年が新規就農者として企画書を持って訪ねて来たんです。農場で蘭の栽培を学んだ経験があり、何より農業に対する思いを勉強会で熱く語る姿に感心させられたものでした。地区の行事など交流を重ねるうち、結婚式にも招待されました。奥さんが手掛けた花のアレンジが好評だと聞いた時はうれしかったですね。二人三脚で、仕事と人生の大輪の花を咲かせてほしいです。

りごとなど破ってしまわないように、サポートがあると助かります。



東村壮太郎さん(八日市場)

東京都出身の東村さん夫妻は、胡蝶蘭の栽培ができる場所を探して、平成24年に移住。「エイビック洋蘭園」の名称で花を市場などへ出荷している。

## ビジョンを実現する まちの「員」として



と選ぶ理由になりますね。齊藤 医療施設の充実など、すぐに解決できる問題ではないと承知しています。それでも、けがをして病院へ行き、半日ほど待たされた時は不便を感じました。歩道がないのは運転する側も怖いですね。

資源を生かし、もっとまちに人を増やしてほしいというのが素直な気持ちです。――移住者を受け入れようという自治体の姿勢は？

「さあ盛り上げていこう」と言っても、進まないんじゃないかと思うんです。もっと住民自身が「このまちの未来が危ないぞ。何とかしよう」という共通の認識を持って取り

このコーナーは、2組の家族を通じ地元の魅力を再確認するとともに、移住を考える市外の人に興味を持ってもらいたいと、今年1月から始めました。

したのと、専門用語での説明が多かった覚えがあります。杉本 手続きがスムーズでない、香取市にしようか他市にしようか迷っている層は離れてしまいます。他市では人口減少に対する政策の成功例もありますよね。齊藤 それです。多分目に見えていないだけなのかもしれないが、やはり自分が移住した土地から人が減っていくのは寂しいです。東村 気になったのは、どれだけの人が今の状況に危機感を持っているかです。客観的に見て人口が減っている中で、市役所の職員だけが

組まないこと。私も、まちの活性化に協力できることはしたいと考えています。杉本 「この地で生き抜く」というスタンスで来たので、市役所は、夢や希望をかなえるための後押しをする存在であってほしいですね。

### 「移住の先輩ブログ」公開中



畔蒜 定子さん (九美上)

地元住民の立場から 近所に新しく引っ越してくる人がいる。そんな時、あいさつから始まるほんの少しの声かけや気づかいが、人間関係を豊かにし、お互いに気持ち良く暮らしていくためのきっかけになります。

隣の空き家に引っ越してくる人がいると聞いて、初めは緊張しましたが、話してみると、感じが良くすぐに打ち解けることができました。頼りになる旦那さんと、明るく笑顔の素敵な奥さんと、とてもやる気に満ちています。最近では、落花生の農作業をするのに、近所のお母さんやお嫁さんに手伝いを頼んで仲良くやっている様子が印象的でした。